

この演説會に於て主催者たる新婦人協會は講演者として議會の筆者のみならず直接演説の一人々を招いた。山内みよをこの招かぬ大者の一人のひとりたかゆ女が改修修正の事業を以て下ルにゴヨアノ婦人の遊戯であると思ふに云ふことか因民新聞にまゝて傳へられたる名ゆゑの演説會へ來りや協會の理事長に依りて演説を拒絶すべしとの講演會は内部に於て決意前記に一紛擾を起したのゆゑなり。

新婦人

山内みよは理事長の拒絶に會ひ憤然として席を立つたるを之が爲めに直接演説の抗議を申しこころ者或は自らその講演の約束を破棄すべしとの數名に及び——新婦人協會の講演拒絶の一人のひとりた。

新婦人協會は大正六年帝大法科の出身にして現に東京朝日新聞の文藝部員たるも帝大社會の主要團體たる新人會の神領にて性徳豊厚なるも思ふは甚だ馬鹿なり。演説會は之が爲め廣演者の數を減じたるも年